

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立鍋島小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・主体的に学ぶ児童の育成のために、国語科を中心に校内研究に取り組んだ。全員が授業を公開して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討してきたことで、児童一人一人が「めあて(問い)」を決め、主体的に学びを追求するようになった。 ・心の教育では、道徳の授業の充実、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等、様々な側面から継続して取り組んだ。いじめ事案や不登校対策については、些細な兆候も見逃さず組織的に対応を行った。児童にとって安心安全な学校を目指して、取組を継続していきたい。 ・業務改善・職員の働き方改革においては、月1回の部会で業務の進捗状況を確認し合ったり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。年度の後半に、時間外在校時間が総じて短くなってきたが、業務内容についてはこれからも改善点があれば見直していきたい。		
2 学校教育目標	「笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成」 ・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童 ・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童 ・思いやりの心を持ち、自分も相手も大切にできる児童 ・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童		
3 本年度の重点目標	① 校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。 ② 鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。 ③ 児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。		

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●心の教育	○活用できる力の基礎となる基礎・基本の徹底	○「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答する児童を85%以上	・鍋島中校区としての取組の一環として「レベルアップ週間」を設定し「鍋島スタイル」(学習)の徹底と家庭学習時間をより意識させる。できている基準を児童に提示し、自己評価につなげる。	・	・	・	・	・
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。 ○道徳科において、教科書に対応した別業を学年ごとに作成する。	・人権・同和教育を教育課程に位置づけ、集会や人権教室等の実施を通して人権感覚の豊かな心の育成を図る。 ・人と人とのつながりを意識し、一人一人の存在を認め合う姿を育て、自己肯定感を高める。	・	・	・	・	・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「心のカード」の記述内容をふまえ、「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。	・「心のカード」を毎月実施し、担任が内容を確認する。問題事案があれば、即座に対応し、その後教育相談、管理職が組織的にかかわり、継続的に見守る。また、不登校傾向の児童の背景や要因を職員で共有し、手立てとする。	・	・	・	・	・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・毎月行う「心のカード」や、年に2回ある教育相談月間の児童への対応では、気になる点だけではなく、児童の頑張りを学期目標に対する肯定的な姿を認めるように話す。 ・児童が書いた学期目標を評価したり、キャリアパスポートに書いた内容を交流したりして、児童が認められたり、夢や目標に意識をけるようにする。	・	・	・	・	・
●健康・体づくり	○「鍋島スタイル(生活)」を中心に考え、極まりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成	○「鍋島スタイル(生活)」が個人で「90%以上」と回答できる児童を80%以上にする。	・「鍋島スタイル」を掲示・放送・学級指導を通じて徹底する。問題行動等の原因、背景をさぐり未然防止に努め開発的生徒指導を展開する。また、生徒指導協議会で情報交換し、指導事項を共通理解する。また、組織で早期解決、再発防止に努める。	・	・	・	・	・
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●年間を通じて給食指導・食育を行い、食べ物を大切にすることができると望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。	・栄養教諭と担任が連携し食育の充実を図る。年に1回以上、授業において食に関する授業を発達段階や、児童の実態に応じて実施する。	・	・	・	・	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●運動習慣の改善や定着化	●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはんができています」と回答する児童を90%以上、「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。	・養護教諭、体育部が主となって望ましい生活・運動習慣を身に付けさせる指導を系統的に行う。レベルアップ週間に、この取組を強化することで指導の充実を図る。 ・状況に応じた感染症対策を行うとともに、外遊びの奨励、大縄大会の実施、体育(保健)の授業の工夫改善を行う。運動の面白さ、楽しさ、喜びを味わわせ、運動に親しむ児童を育成する。	・	・	・	・	・
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日の定時退勤日、第三金曜日のスーパー定時退勤日の取組を全職員で意識し、達成を目指す。	・	・	・	・	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の縮減に取り組む、効率化が進んだという職員を70%にする。	・長期、短期毎に業務の内容を見通した計画を立て、各学年、部内で可視化。教育効果を優先に考え行事の削減、縮小を行う。	・	・	・	・	・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○志を高める教育	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする主体性を育む活動の充実	○「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童の割合を85%以上にする。	・教育活動に「キャリア教育」「SDGs」の視点を入れ込むことで、将来に向けた目標や計画を立てさせる。「社会・世界・持続可能」のSDGsの観点を意図的に取り入れる。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	・	・	・	・	
○危機管理体制の強化と対応能力の育成	○家庭と連携した防災教育・安全教育の充実	○「災害が起きた時に自分の身を守る事ができる」と回答する児童を95%以上にする。 ○自転車のヘルメット着用率を90%以上にする。	・年度はじめに避難の仕方や避難経路を伝え、職員の指導力向上を図るとともに、児童にも朝タイム等で指導する時間を確保し、不測の事態に対応を想像させる。各訓練は、実際に動きの確認をし、対応力を付けさせる。 ・道路交通法の一部改正(令和5年4月1日施行)により、全ての自転車利用者に対し、自転車の乗車用ヘルメット着用努力義務が課せられることや、正しい乗り方についての指導内容等を各種便りで家庭に広める。	・	・	・	・	・
○特別支援教育の充実	○教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立	○「対象児童に適切な対応をとっている」と回答する教職員を90%以上にする。	・支援が必要な児童に対して組織で情報を共有し体制を整えるとともに、短期・長期目標を決定する。 ・外部機関との連携を密にし、実効性のある職員研修を実施する。	・	・	・	・	・

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・ ・ ・							
----------------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--